令和8年度

石井町藍畑小学校「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

・子どもの気づきを大切にし、基礎的・基本的な知識・技能の定着と思考力・判断力の向上を図り、分かる喜びを大切にした楽しい授業を工夫する。
・ICT機器を活用し、言語活動の充実と、基礎・基本の徹底により学びを定着させる。
・児童同士の学び合いを大切にし、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指す。
・読書活動の推進により語彙力・想像力を向上させ、豊かな心を育てる。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
教諭　鋳形美絵 （第1学年担任） （中学年担当） （高学年担当）	校長　河野恵子　教頭　清重正俊 教務主任　教諭　井上明　研修主任　指導教諭　武市由美 教諭　武市由美 教諭　石井湧大

校長

河野　恵子

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】管理職による授業参観や教員による報告等、様々な機会を捉え、情報交換や状況把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○どの学年も落ち着いて学習に取り組み、与えられた課題にまじめに取り組むことができる児童が多い。 ○学習アプリでの学習の習慣や、タブレットの基礎的な操作のスキルが身に付いている。デジタル教科書の活用の仕方を学んでいる。 ●既習事項を生かした応用問題に苦手意識をもつ児童が多い。 ●長文の読解力が弱く、文章を読んだり、話を聞いたりして内容を把握することに課題がある。	・ICT機器を活用し、個々の能力に合わせた知識・技能の習得や、応用問題に取り組むことができる。 ・伝えたいと思う魅力的なテーマを設定し、書くことに対する意欲を高める。 ・日記指導や作文指導により、書く機会を増やし、文章力の向上につなげる。 ・文章の内容を正確に読み取ったり、話をよく聞いて、内容を把握したりできる。	・子どもの気づきや分かる喜びを大切にし、楽しい授業を工夫する。「授業は分かりやすく楽しいと答える児童を90%以上にする。 ・タブレット端末を、授業や家庭学習で積極的に活用するようにし、個々の能力に合わせた学習内容を提示する。 ・SAMRモデルを確認し、ICT教育について、M段階に目標を設定して取り組む。 ・基礎・基本の徹底だけでなく、応用問題や日常での活用に活かすなど、授業を工夫する。 ・書きたいと思うテーマを選定し、日記指導や作文指導により、基礎基本の習熟を図り、文章力の向上につなげる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○答えを発表したり、文章を声に出して読んだりすることのできる児童は多い。 ○調べ学習や体験的な学習で考えを深める児童が多い。 ●自分の考えを根拠や例を挙げて話したり、自信をもって伝えたりすることに課題がある。	・根拠や理由を明らかにして、自分の考えを表現したり、自分と友だちの意見を比べながら聞いたりできるようにする。 ・個別、ペア、グループなどの学習形態を多様化し、主体的で対話的な学びの場を設定する。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動を行う。 ・児童の発言や発表の内容に「なぜ」「どうして」など、思考を深める発問を行うなど、豊かな言語活動が展開されるようにする。 ・体験学習を重視し、テーマに向かって学習活動を展開していく単元を構想する。			

(3)主体的に学ぶ態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○ほとんどの児童が毎日宿題を提出しており、授業中も真面目な態度である。 ○学習に対して、前向きに取り組み、よく聞き、考える児童が多い。 ●応用問題に、粘り強く取り組むことのできる児童や自主学習に取り組む児童が少ない。 ●読書習慣の定着が十分でなく、図書室の利用がほとんどない児童が多い。	・基礎・基本の問題だけでなく、体験的な学習活動に取り組み、自ら課題を見つけ、あきらめずに追求する学びの姿を目指す。 ・読書習慣を身に付け、前後期ともに、低学年50冊、中学年40冊、高学年30冊の目標を達成する児童を80%以上にする。	・教科・領域の横断的な単元構成を構想する。 ・各教科の学習や家庭学習に、基礎・基本の問題だけでなく、応用問題や教科書に載っていない読解問題などを取り入れる。 ・グループやペアなどで、あるテーマについて意見を出し合う学習活動を多く取り入れる。 ・読み聞かせや図書委員による読書冊数の表彰に加え、イベントを行い読書への興味関心を高め,本の貸し出しを推進する。			